

運行管理者一般講習
ご参加の皆様へ

一期一会（いちごいちえ） 第五十章

…『大切な家族の笑顔を守る』…

交通事故ゼロ運動を前に、交通安全に関する項目を検索していたところ、次のような記事を見つけ、私は強く心を打たれましたので、ご紹介します。

～ ある記事より（2005年）～

交通安全週間のある日、母から二枚のプリントを渡されました。そのプリントは、交通事故についての注意などが書いてあり、その中には実際にあった話を書いてありました。

それは交通事故で加害者の立場で亡くなった人の家族の話でした。

残されたのはお母さんと子供たち、上の子が小学二年生、下の子が五歳の男の子の兄弟です。この人たちは、事故の補償などで家もなくなり、土地もなくなり、住む家もやっこのことで四畳半のせまい所に住めるようになりました。

お母さんは朝6時30分から夜の11時まで働く毎日です。

そんな日が続くある日、三人でお父さんのいる天国に行くことを考えてしまっていました。

朝、出かけにお兄ちゃんに、置き手紙をした。

「お兄ちゃん、お鍋にお豆がひたしてあります。それを煮て、今晚のおかずにしなさい。お豆がやわらかくなかったら、おしよ油を少し入れなさい。」

その日も一日働き、私はほんとうに心身ともにつかれ切ってしまった。皆で、お父さんのところに行こう。

私はこっそりと睡眠薬を買ってきた。

二人の息子は、そまつなフトンで、丸くろろって眠っていた。

かべの子供たちの絵にちよっと目をやりながら、まくら元に近づいた。そこにはお兄ちゃんからの手紙があった。

「お母さん、ぼくは、お母さんのてがみにあったように、お豆をにました。お豆がやわらかくなつたとき、おしよ油を入れました。でも、けんちゃんにそれをだしたら、「お兄ちゃん、お豆、しよつばくで食べれないよ。」と言って、つめたいごはんに、おみずをかけて、それをたべただけでねちやった。お母さん、ほんとうにごめんなさい。でもお母さん、ぼくをしんじてください。ぼくのたお豆を一つぶたべてみてください。あしたのあさ、ぼくにもういちど、お豆のかたをおしえてください。でかけるまえに、ぼくをおこしてください。ぼく、さきにねます。あした、かならずおこしてね。お母さん、おやすみなさい。」

目からどつと、涙があふれた。

お兄ちゃんは、あんなに小さいのに、こんなに一生懸命、生きていてくれたんだ。私は睡眠薬を捨て、子供たちのまくら元にすわって、お兄ちゃんの煮てくれた、しよつばくを涙とともに一つぶ一つぶ、大事に食べました。

このお話を読み終えたとき、私と母の目から、涙が出てきました。そうして、何度も、何度も、くり返し読みました。

私は、今まで、交通事故は被害者だけが悲しい思いをしていると思つていましたが、このお話を読んで、加害者も私たち以上に悲しくせつない思いをしていることがわかりました。

毎日、毎日、日本のどこかで、こういう子供たちが生まれているのかと思うと、とてもたまりません。

どうか、お願いします。

車を運転するみなさん、交通事故など、絶対におこさないでください・・・

～以上が記事の内容です～

私達は、プロドライバーとして絶対に被害者も加害者も出してはいけません。

そして私達を支えてくれている家族の笑顔も絶対に奪ってはいけません。

今回の秋の交通事故ゼロ運動のサブスローガンである、

『大切な家族の笑顔を守る』

を全社員で考える10日間にしていきたいと思います。

以上